

●▲ みねのぶ



小麦雪腐れ病防除
(平成30年11月7日／仲河政博さん圃場／美唄市光珠内)

■発行日/平成30年12月1日/No.1400号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

農業用廃プラスチック回収

青年部が実施

10月26日、JA青年部（中越健祐部長）が農業用廃プラスチック類の回収を行いました。今回の回収は6月29日に続き本年2回目の回収となります。

青年部の皆さんは、肌寒い中を早朝から各担当作業にキビキビと当たっていました。

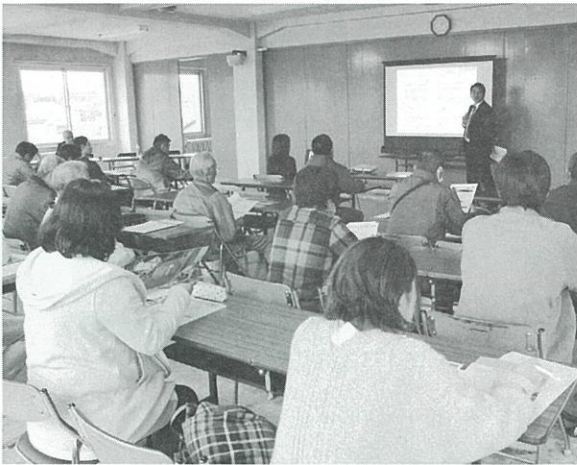
回収したのは、使用済みのハウスピニール、マルチ、育苗箱、肥料袋、農薬の空容器等で、186人の組合員の皆さんから17、092kgの産業廃棄物を回収しました。峰樺3区の農産物検査場所敷地に集められ、排出者（組合員）毎に重量を測定・記録した後に種類毎に分別して運送会社の大型トラックに積み込まれ苦小牧の産業廃棄物処理業者に搬送されました。回収した廃プラは固形燃料として産業廃棄物処理業者が運営する苦小牧にある火力発電所で再利用され化石燃料の代替燃料として有効利用されます。

JAでは、生活環境を守り「環境に優しい農業」を実践して安全・安心な農産物生産の実践を目指しています。

農業経営者研修会を開催

11月8日、JA三階会議室で農業経営者研修会を開催しました。

平成31年10月からの税制改正に伴う留意点等の農業経営者に必要な知識を身に付けてもらおうと開催しました。また、要望の多い事業承継に関する研修も行いました。講師は(株)オーレンス総合経営札幌支社（本社中標津町）の社員の方々と、税制改正の中でも農業経営者の皆さんに影響度が高い内容と事業承継について研修が行われました。参加した組合員の皆様は22名、2時間の研修を真剣に受講していました。



第3回監事監査終わる

本年10月末日を基準日とする第3回監事監査が11月14日から16日までの日程で、浅香代表監事以下3名の監事により執行されました。本年度事業の第3四半期における事業進捗状況及び会計処理等について精力的に監査を行い、最終日に常勤理事、各課長に対して監査講評が行われました。

第10回（11月定例）

理事会の開催について

11月26日開催の第10回（11月定例）理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 信用限度を超えた資金の貸付について
2. 農家経済再建対策組合員・農業経営強化資金借入者に対する資金の貸付について
3. 理事が代表を務める法人の平成30年度クミカン取引の貸越極度額の変更にについて
4. 理事に対する平成30年度クミカン取引の貸越極度額等の変更について
5. 営農計画書審査方針及び基準の設定について

6. 役員報酬審議会委員の委嘱について

-報徳-

米作の積小為大

翁のことばに、世間の人は、とにかく小事を嫌って大事を望むけれども、本来、大は小の積もったものだ。

だから、小を積んで大をなすほかに方法はない。いま、日本国中の田は広大無辺無数といってよいほどある。ところがその田地は、みんな一畝ずつ耕し、一株ずつ植え、一株ずつ刈り取るのだ。その田一反を耕すのに、畝の数は三万以上になる。その稲の株数は一万五千内外もあろう。みんな一株ずつ植えて、一株ずつ刈り取るのだ。その田からみのった米粒は、一升で六万四千八百余粒あるし、この米を白米にするには、一臼の杵の数は、千五百以上になる。その手数を考えて見るがよい。だからして、小事を勤めねばならないわ

れがよく知れよう。（夜続四五）

新年常会は
1月7日(月)に開催

平成31年1月の新年常会は
7日(月)午前10時から
JA三階会議室で開催いたします。

JA役員、農事組合長、
青年部長、女性部長、農民
協役員の皆さまは定刻ま
でにご参集願います。

(総務課)

女性部が秋期親睦会を行う

11月2日、J A 女性部（吉村俊子部長）が秋期親睦会を行ないました。

この親睦会は2年に1回の開催で農作業が落ち着いたこの時期に開催しています。

従来は農作業の慰労で温泉に入るのが定番でしたが、今回は「芸術の秋」を意識して陶芸体験を行い、14名の部員が参加しました。

訪れたのは、江別市元野幌にある「陶芸工房アトリエ陶」、工房を主宰する金井正治先生は自身の畑で野菜を生産する現役の農家です。また、工房の横には傍の畑で採れた野菜を使用したランチを提供する「ファームレストラン食



アトリエを主宰する金井正治先生

祭」があり、中には直売所もありました。

部員の皆さんは童心に戻り粘土を繰り返して叩いては伸ばしていきました。ろくろを回しながら指先で水で濡らし粘土の形を整えますが水平にならなかつたり、厚みが均一にならなかつたりと両手を泥まみれにしながら、マグカップや皿、どんぶり、サラダ用の食器を作っていました。

形が出来上がると、次は器に塗る色選びで、見本の器を見ながら楽しそうに悩んでいました。

陶芸体験終了後は隣の「ファームレストラン食祭」で地元野菜を使ったランチを堪能しました。

その後は江別市西野幌にある小麦の「ゆめちから」を使ったパン



ろくろで器を型どります

工場が併設されている「ゆめちからテラス」の直売所を訪れ家族にお土産を買う光景が見られました。また、レンガ工場をリノベーションした商業施設「EBRI（エブリ）」（江別市東野幌町）も視察見学し、地元の野菜が数多く並べられた大きな直売所があつて、部員の皆さんの関心を引いていました。

天気にも恵まれ内容も充実した親睦会でした。

米の作況指数、全国99「平年並み」、北海道90で9年ぶり「不良」

（10月15日現在）

農林水産省が10月31日に発表した10月15日現在の本年産米の作況指数は、全国が99「平年並み」と発表しました。北海道は9年ぶりの90「不良」で、胆振東部地震の影響は限定的でしたが、6月中旬から7月中旬の日照不足と低温が影響して稲穂の粳数や茎数が少なくなり、収穫量は前年産より11%減の49万5000トで、10㍗当たり収穫量は496kgと予想されています。北海道の作況指数が1000を下回ったのは9年ぶりとなります。

道内11地域の全地域が94を下回

る「不良」でした。南空知が87で最も悪く、北空知と上川が90、留萌が91、石狩と檜山が93、胆振と後志、渡島が94でした。

全国の10㍗当たり予想収量は529kgで、作況指数100を上回った地域は九州、中国、沖縄、100が関東、100を下回ったのが東北、北陸、東海、近畿、四国でした。

農協職員認定試験に合格

J A 北海道中央会が平成30年度農協職員資格認定試験（基本資格）初級の合格者を発表しました。当J A の合格者は次のとおりです。合格おめでとうございます。

◇初級（3人）

- ・佐藤速也斗（金融課）
- ・小笠原康平（営農販売課）
- ・林 真里（営農販売課）

農事組合の合併

「光珠内北五号」「光珠内北六号」「光珠内北の北」「光珠内北北二」の4つの農事組合が合併し、11月17日に設立総会が開催され「光珠内北農事組合（正組合員29戸、准組合員3戸）」が誕生しました。

女性部がJA北海道女性大会、

北海道家の光大会に参加

11月8日から9日、当JA女性部（吉村俊子部長）の皆さんが札幌市北区茨戸にあるシャトレレーゼガトーキングダムで開催された「第54回JA北海道女性大会・平成30年度北海道家の光大会」に参加しました。

会場には全道のJA女性部員550名が一同に集い、JA北海道女性部として関係機関の助言のもと、新たな基本方針の策定を図ると共に、全道の仲間と連携親睦を図り、今後の組織活動の活性化や



JA運動に結集することを目的に開催されました。

8日はJAグループの情報機関誌として発刊されている「家の光」を活用した「家の光記事活用体験発表」が行われたほか、全体研修として全国の農村女性のカンパを資金として賄い製作された映画「荷車の歌」が上映され、著しく変化する社会情勢の中で力強く生きる女性の姿が描かれており、上映の修了と同時に会場から大きな拍手が響いていました。

9日は「家の光」に掲載されている日々の営農や生活に役立つ情報を紹介しあう「家の光持ち寄り読書会」の後に「第54回JA北海道女性大会」が行われました。

この大会は2年に1回行われていて、今回は「仲間づくりと学習を通じた次世代リーダーの育成」と題した討議が行われ、女性部員の減少、地域との関わり、今後の組織活動などについて道内各地の女性部員から報告され、活発な意見交換が行われました。

第29回JA北海道大会に参加

11月13日、札幌コンベンションセンターで第29回JA北海道大会

が開催されました。全道のJA、青年部組織、女性部組織の代表ら約2400人が参集しました。当JAからも、役員、青年部、女性部の12人が参加しました。

この大会で、JAグループ北海道が今後3年間における方針を決議し実践していくことを確認する位置付けとしていて、3年に1回開催されています。

今回の大会では、前回大会で決議したJAグループ北海道の将来ビジョン『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』の実現を継承し、新たに重要性を増す「協同組合の価値と実践」を決議しました。

大会開催前に、「多様化する組



当JAから役員・青年部・女性部など12名参加

JA駐車場の夜間・早朝の駐車厳禁

当JAをご利用いただくお客さまの駐車場は、本部ビル裏と横（旧まる川食堂等跡地）、JR峰延駅周辺、営農事務所前などにありますが、冬期間はこれらの駐車場の除排雪作業を行っています。

除排雪作業は当JAが委託した業者が行っていて、除排雪作業はJAの営業時間外に行うため、JAの営業時間終了後から翌日朝8時頃までの時間帯に駐車をされますと除排雪作業の支障となりますので、この時間帯の駐車は厳禁といたします。

何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

（総務課）



合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」をテーマにパネルディスカッションが実施され、JAグループ北海道と生協連との相互連携などが議論されました。



手際よく切り分けます

部員はみな主婦なので手際良く

4班に分かれて調理しました。
今回は2年ぶりの料理講習会で、料理が得意な役員2名がレシピを考え、講師となつて「鶏チャーシュー」「エビと豆のサラダ」「車麴のしょうが焼き」「にんじんナムル」「さつま汁」「桜餅」の6品を作つてワンプレートランチにしました。材料となる米やさつまいも、にんじん、大根などは自分たちが生産したものを持ち寄り、

JA女性セミナーで 料理講習会開催

11月16日、JA女性部（吉村俊子部長）が峰延中学校家庭科室を借りて、第2回目の女性セミナーを開催し18名が参加しました。



盛り付けにも気を配ります

材料を切り分け、炒め、煮込み、混ぜ込み、次々と出来上がつて、彩り良く皿に盛り付け、1時間半ほどで6品が完成しました。
部員からは「野菜が沢山あつて身体に良さそう」「車麴のしょうが焼きは今度家でも作つてみよう」「桜餅の作り方がわかつて嬉しい」など楽しい感想が出ていました。
炊きたてのななつぼしと一緒にランチプレートを美味しく食べていました。

今回作った6品のレシピは、JAみねのぶのホームページ「くらしの情報」に紹介していますのでご覧下さい。

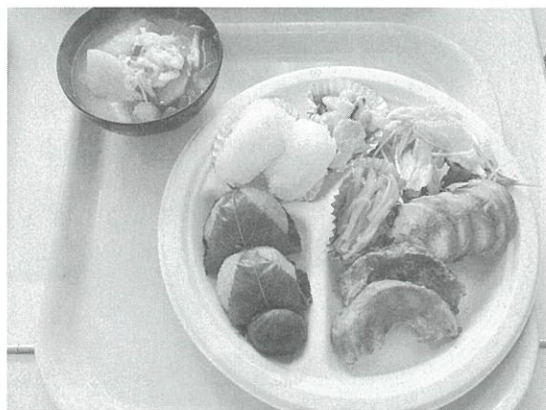
平成31年のカレンダー・手帳進呈

JA峰延では、組合員の皆さまに進呈する平成31年のカレンダーとポケット手帳の配付を農事組合長さんをお願いしています。各農事組合長さんには組合員宅1戸に各1冊ずつの配付をお願いしていますので、この時は1戸で2人以上組合員にご加入いただいている方全員には行き渡りません。

当初の農事組合長さんの配付で行き渡らない方で、カレンダー、ポケット手帳をご希望の方は誠に恐れ入りますが、当JA二階事務所までお越しいただき職員にお申し付け下さいますようお願いいたします。

なお、用意した数量には限りがありますのでお早めに受け取られますようお願いいたします。

(総務課)



完成しました

業務部門		本部事務所(ビル2階)	金融店舗(ビル1階)	ATM(現金自動預払機)	生活店舗(ビル1階)	峰延給油所
年月日		営農事務所 営農資材店舗				
平成30年12月	28日(金)	9:00~17:00	窓口 9:00~17:00 現金 9:00~16:00 為替 9:00~15:00	8:30~18:30	9:00~18:30 *29日~31日まで30分早く開店	8:00~19:00
	29日(土)	休業	休業	9:00~18:30	〃	〃
	30日(日)	〃	〃	〃	〃	8:00~18:00
	31日(月)	〃	〃	休業	9:00~16:00 *31日は16時で閉店	8:00~13:00 *31日は13時で閉店
平成31年1月	1日(火・祝)	〃	〃	〃	休業	休業
	2日(水)	〃	〃	〃	〃	〃
	3日(木)	〃	〃	〃	〃	〃
	4日(金)	〃	窓口 9:00~17:00 現金 9:00~16:00 為替 9:00~15:00	8:30~18:30	〃	〃
	5日(土)	〃	休業	9:00~18:30	10:00~15:00(初売り) *営業時間変更	8:00~19:00 (初売り)
	6日(日)	〃	〃	〃	10:00~15:00 *営業時間変更	8:00~18:00
	7日(月)	9:00~17:00 (新年常会10:00~)	窓口 9:00~17:00 現金 9:00~16:00 為替 9:00~15:00	8:30~18:30	9:30~18:30	8:00~19:00

*利用精米所は機械点検・清掃により12月28日(金)から1月6日(日)まで休業となります。

皆さまのご利用をお待ち申し上げます。

年末年始の 営業時間のお知らせ

当JAの年末・年始の営業時間をお知らせします。

JA 役員研修報告

11月7日から9日の2泊3日の日程でJA役員研修を実施しました。

今回、役員が訪れたのは、株式会社諸長（本社 新潟県魚沼市）、JAてんどう（山形県天童市）、株式会社山本製作所（本社 山形県天童市）の3カ所でした。

研修テーマを「先進的に取り組まれている精米HACCPの内容と当組合の精米施設に必要な環境整備について」とし、日本でも有数の米どころである新潟県・山形県の企業を視察しました。

① 株式会社諸長

新潟県見附市にある「見附精米



株式会社諸長の倉庫を視察

工場」を視察しました。株式会社諸長は2017年に新潟県内で初めてとなる精米HACCPの認証を取得し、消費者に安心と信頼を生む製造に努めている企業です。

工場内では、精米HACCPの条件となる一般衛生管理と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）について、精米HACCPチームによる職員教育と日常的な作業内容の「見える化」を行い、職員の



清潔な環境を保つため温度・湿度も区分管理（ゾーニング）

意識付けに努めていました。

また汚染物質との交差を避けるために施設内を明確に区域分けする「ゾーニング」が徹底しており、汚染物質・異物などの混入防止対策が講じられていました。

消費者が求める「食の安全性」と精米工場に求められる「安全性意識の向上」が視察を通して大変重要であることを学びました。

今後、精米HACCPの法的な義務化の動きが進んでいることから、当JAの精米工場も認証の取得に向けて準備に取り組んでいるため、大変参考になる視察でした。

② JAてんどう

山形県天童市にある「株式会社



JA天童市の100%子会社であるジェイエイトンどうフーズの精米工場を視察

ジェイエイトンどうフーズ」の精米工場を視察しました。2001年に「JAてんどう」より事業移管、100%出資による子会社として「株式会社ジェイエイトンどうフーズ」を設立。米の搗精・販売事業、店舗小売業、葬祭事業を行なっております。山形県を代表するブランド米「つや姫」の精米販売をはじめ、JAてんどうで集荷される玄米全量を精米販売し、量販店や中食、外食への直接販売を行い独自の販売網を作り上げた流通改革が行われていることを確認しました。

工場視察では、施設内の内圧を高め施設外からの虫や異物の侵入を防ぐ対策や、徹底した清掃による衛生管理と製品への異物混入を防ぐため、各昇降機にエアブローを取り付け、1ラインに色彩選別機を3台設置するなどコンタミ防止にも努めておりました。

コンタミの問題をクリアする目的で、独自のDNA検査による品種判定をはじめ、放射検査設備も整備され、安全性を追求した取り組みを行っていました。

【連載】～続・今こそJA!～

【第6回】JAの地域貢献③

JAは地域住民に対して様々なサービスを行っています。北海道内にはJAの生活店舗や金融機関、ガソリンスタンドしかない市町村が全体の約半数に及んでおり、JAが住民の生活において重要なインフラとなっています。また、JA青年部が主体となって小学生等を対象とした農業体験などの食農教育にも取り組んでいます。さらに農産物の収穫を終えた毎年10～11月頃には各地のJAで大収穫祭や農業まつりなどのイベントが開催されます。JA毎に内容は異なりますが、地元産農産物の即売など様々な催し物が行われています。こうしたサービスのすべてがまさにJAが行う地域貢献なのです。



JA共済連の救急車贈呈式

JAはもちろんのこと、連合会も様々な地域貢献を行っています。JA北海道共済連では昭和50年度以降、北海道内の自治体に約200台の救急車を寄贈、さらに交通安全啓発資材の配布、被災者に対する仮設住宅やブルーシートの貸与、AED（自動体外式除細動器）の設置・活用を行っています。また、JA北海道信連では、平成20年度より全道約1,100の小学校を対象に農業の理解に資する補助教材を贈呈しているほか、食農教育支援や地域での清掃活動に取り組んでいます。

地方における人口減少が叫ばれている中、地域の生活を支える頼もしい存在であり続ける。JAの地域貢献は様々な形で行われているのです。

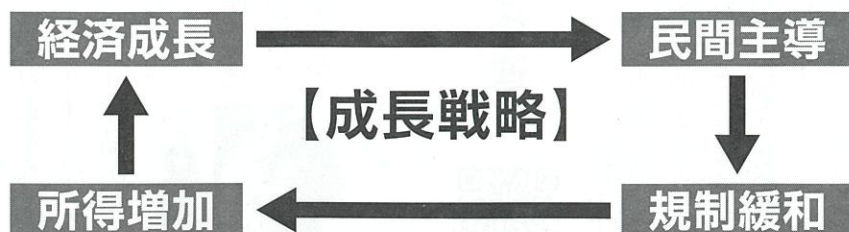
【第7回】アベノミクスと規制改革

平成24年12月、第二次安倍内閣が発足しました。そこで掲げられた経済政策を「アベノミクス」と呼んでいます。アベノミクスは「3本の矢」という大きな柱から成り立っており、その中でも重点を置いているのが「民間投資を喚起する成長戦略」という項目です。これは経済成長を民間の力で進めること、そのためには自由競争の障害となる規制を取り払っていかうという、いわゆる「規制改革」という考え方が根底にあります。

その規制改革を進めるための組織として安倍総理は平成25年1月に「規制改革会議」を設置しました。この会議は民間有識者と呼ばれる人々で構成され、安倍総理は規制改革会議に規制改革についての意見を求め、規制改革会議は審議した結果を安倍総理に答申します。これを受けて政府は成長戦略に関する方針を決定し、次年度の予算編成や法律改正を進めることになります。その後、規制改革会議は規制改革推進会議と名前を改めて現在に至っています。

規制改革推進会議には具体的な作業を行ういくつかのワーキンググループがあり、農業に関しても有識者とされる11人で構成されるワーキンググループが設置されています。そのメンバーは大学教授、民間企業の代表者、農業法人代表者などですが、農協関係者は1人も入っていません。国民の信託を受けない者が政策決定に向けて発言し、農協関係者を入れずに農協をどう変えていくかを議論しているというおかしな流れになっているのです。

【第2次安倍内閣の経済政策（アベノミクス）のイメージ図】



JAグループ通信

No.29

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、
組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会



11月13日、JAグループ北海道の役員はじめ約2400名が参加し、「第29回JA北海道大会」を開催しました。大会では、将来ビジョン『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」』の実現を継承し、重要性を増す「協同組合の価値と実践」を決議しました。協同の力と総合力を発揮し、一丸となって決議事項の実践を通じた自己改革に取り組みます。

決議事項の実践内容や農業・JA・協同組合の意義や価値の発信により、北海道550万人から信頼されるJAグループ北海道を目指します。



JA北海道信連



9月に、札幌市において、小学生が社会の仕組みを学ぶ職業体験イベント「ミニさつぽろ」が開催され、JAバンク北海道では金融機関という役割で参加しました。

JAバンクでは、お金の数え方の練習やお仕事体験した子へお給料を支払う仕事を体験してもらい、中には「お金持ちになったみたい」とお札の束を広げる子も…。未来のサポーターづくりへ、来年以降も参加していきたいと思っています。



ホクレン



北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例のイベント「2018第47回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。今年はJA北海道女性協議会の「私の心を込めた農畜産物おむすび!」とJA北海道農協青年部協議会の「農業クイズ」などの生産者参加イベントも行われ、大収穫祭を盛り上げ、連日、どの売り場も秋の味覚を求める人々で大盛況でした。



JA共済連北海道



10月27日(土)にANAクラウンプラザホテル札幌にて、第45回目となる「平成30年度JA共済全道小・中学生交通安全全ポスターコンクール」の表彰式を開催しました。全道より4,342点の応募をいただいた中から金賞9作品が選出され、受賞されたみなさんが表彰されました。

今回受賞された作品は、さつぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されております。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

